

まほろん

通信

Shirakawa since 2007



◆特集◆

くだらのこにきしうじ

福島古代鉄生産と百済王氏

◆シリーズ保存科学の世界1◆

保存科学ってなんだ？

■シリーズ最新遺跡発掘調査情報5■

「バナナ」が1本ありました♪

■コラム■

土器を食べる！？

福島の 古代鉄生産 と百済王氏

企画展「ふくしま鉄ものがたり」
～鉄滓の山から読み解く歴史～

文：門脇 秀典（専門学芸員）

1. 浜通り地方の古代製鉄遺跡の成立について

浜通り地方の海浜部には、砂鉄が豊富に分布しています。浜砂鉄の分布は、北はおおよそ阿武隈川河口から、南はいわき市薄磯あたりまでで、この分布と古代製鉄遺跡の広がりとは、ほぼ重なります。

福島県における製鉄の開始時期ですが、7世紀半ばとみるのが通説です。これは本県のみならず、滋賀県（近江国）より東の国々で、ほぼこの時期に鉄の製錬を開始しています。製鉄炉の炉形態の研究から、滋賀県南部で開発された技術が、比較的短期間に愛知・静

岡・神奈川・千葉・群馬・茨城を経て、福島へ伝播したと考えられています。この背景には、製鉄が官営工房であったこと、それを支える技術集団に渡来系氏族の関与があったことなどが指摘されています。

福島県の古代製鉄を考える上で、重要な画期は8世紀半ばと考えています。この時期まで製鉄炉の形態は長方形箱形炉とよばれる、バスタブ様のものでした。これに加え、福島県には竪形炉なる円筒形の炉が、8世紀半ばに関東地方から導入されたと考えられます。

この竪形炉には、踏みふいごと呼ばれる送風装置が付きますが、これは一説には銅の溶鋳炉の技術と関連があるといわれます。この時期、つまり東大寺や全国に国分寺などが造営される時期において、大仏づくりに代表される溶鋳炉技術が、製鉄に影響を与えたと考えられます。

加えて福島県の製鉄遺跡では、8世紀末頃に、竪形炉の踏みふいご送風技術が長方形箱形炉の技術と融合を果たします。加えて送風孔に羽口を装着することも、そもそも鍛冶系の技術の一端とみられ、これらが同じ箱形炉の中で融合したことは、特筆すべきことでしょう。これが8世紀の福島県の製鉄遺跡の特色といえ、9世紀には日本国内でも有数の生産量であったと推察しています。

（背景：横大道遺跡の竪形炉、8世紀後半）

2. 百済王敬福による砂金発見について

続日本紀によると、金を精錬させるために、大宝元（701）年三月十五日に凡海宿禰鹿鎌を陸奥国に遣わしたことが知られています。しかしその後、凡海鹿鎌の記載がないため、一般的にはこの派遣は失敗に終わったと考えられています。

次の陸奥国の黄金に関する有名な記載は749年の百済王敬福の派遣の記事で、陸奥国内（宮城県湧谷町あたり）で、大量の砂金を発見し、それを溶かして黄金900両を朝廷に献上したとあります（続日本記天平神護二年六月二八日条）。

これはまだまだ議論の余地があるのですが、百済王敬福は精錬に長じた集団を配下に従え、8世紀半ばに陸奥国に派遣されたと考えられます。この技術には溶鋳炉や送風技術も含まれていたと考えられ、同じ時期に福島県域に導入されたとされる竪形炉の製鉄技術を考える上で重要になるかもしれません。



館越遺跡の長方形箱形炉
（8世紀末頃）

表紙の一枚

まほろん感謝デーでおこなった「もみぎり火おこしチャレンジ」。普段のまほろんの火おこし体験で使うまいぎりは使わずに、もみぎり一本だけを使って誰が一番早く火種をつくることのできるかを競いました。会場は大盛況でした。

保存科学ってなんだ？

文化財をはじめとした歴史の痕跡を、未来に残す分野を紹介します。

文：中尾 真梨子（副主任学芸員）

みなさんは、保存科学という言葉聞いたことがあるでしょうか。

保存科学とは、文化財をはじめとした歴史の痕跡を未来へ伝えるため、自然科学を用いて研究する学問分野のことを言います。

材質は何か？ どのような構造なのか？ 劣化の原因はなにか？ どう対処すればいいのか？ どのように保管すべきか？ 文化財を守るためには、様々な状況と原因を調べ、対処しなくてはなりません。さながら、文化財のお医者さんのような役割を果たします。

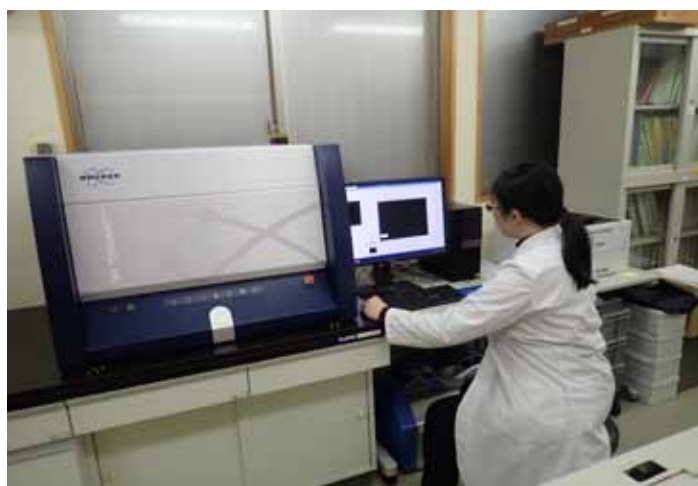
福島県文化財センター白河館（まほろん）では、遺跡から発掘された資料の保全や、展示・保管環境の安定化などの業務を、保存科学の手法により実施しています。

遺跡から発掘される出土品は、様々な材質で構成されています。その中でも、木製品や繊維製品などの有機質遺物や、鉄製品や青銅製品などの金属質遺物は、放置してしまうとあっという間に元の形を失ってしまいます。貴重な歴史の証人であるこれらの文化財が失われてしまわないよう、その材質や構造などをもとに適切な方法で処理し、安定した状態を保ちます。

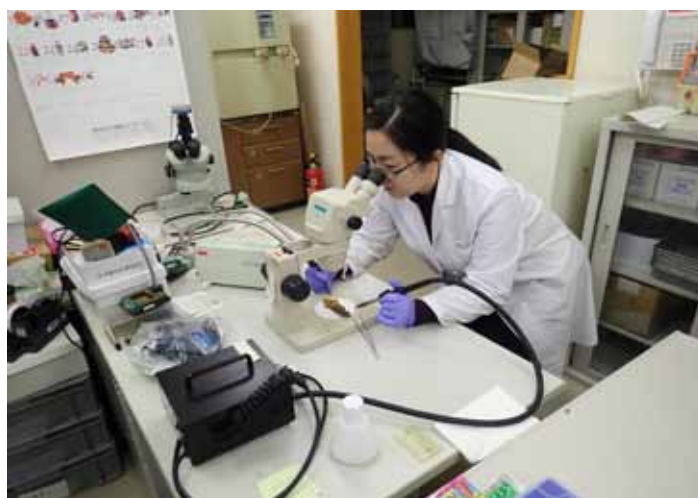
しかし、一度処理をすれば永遠に保たれるわけではありません。50年、100年先の未来まで文化財をつなげるためには、適切な保管環境を保つことや、その後のメンテナンスも重要です。保存処理の効果は永久ではないのです。

いま我々が生きている社会は、長い歴史のうえに成り立っています。この先の未来を考えると、歴史に学び、歴史の証人である文化財を守ることは重要なことです。

保存科学は、そんな歴史を守るため日々進化しています。



まほろんの蛍光X線分析装置



鉄のクリーニング作業の様子

『土器を食べる?!』

文：武熊 野の香（学芸員）

「へんないきもの大王タイトルマッチ」というものが、昨夏、インターネット上で開催されました。全国の動物園・水族館を代表する、コンペイトウ（魚）やハシビロコウ（鳥）などの「変」な生き物。その中でも最も変な生き物を決める大会だったそう。優勝はどんな生き物？と思ったら、なんと「ヒト」！深海魚を食らい尽くす水族館の飼育員さんです。多くのお客さんの「この深海魚っておいしいの？」という疑問に答えるべく、自分の舌と胃で調べているそう。うーん！なるほど！経験があると、説得力のある答えができる。飼育員さんの場合、「食べる」ですが、それじゃあ、私は…？

まほろんといえばやはり土器。作った人は何を思っ作った？どうやって作った？いろんな疑問が湧いてきます。なので、私は土器を作ったり使ったりしてむかしの人の気持ちに近づきたいと思います！あの飼育員さんのようになりたいな〜！

「バナナ」が1本 ありました♪

会津若松市西坂才遺跡出土の
3本脚の土器

文：阿部知己（副主幹）



3本脚のついた土器（イメージ）



3本脚の土器が見つかった場所で作業している様子

会津若松市高野町にある西坂才遺跡から、不思議なものが見つかりました。その時の様子を交え紹介します。

夏の暑さが体にこたえる日中、西坂才遺跡の発掘調査に参加していた一人の男性（ここでは「Bさん」と呼んでおきましょう）が、私のところにかけ寄り、小声で話しかけてきました。

「おれ、古代人のウ〇チを掘り出しちまったのかもしれねえ…。どうすッペ」

私は、Bさんが調査していたところに行き、出土した「モノ」を観察しました。長さは約 15 cm、太さ是指 2 本分ほど、少し短めのバナナのような形。その表面には、少し湿った赤茶色の土がついていました。よくみると、3本も出土していました。

「心配しなくても大丈夫なようですよ。見つかったものは、粘土を焼いて作られたものですね。でも、チョット、似ているような、感じもするけど…」

「見つけてくれたモノは、おそらく、お椀の形をした素焼きの土器につけられた脚の部分です。本来の形は、3本の脚が貼り付けられた土器で、煮炊き用、火鉢などとして使われていたようですよ。土器の年代は、今から 1100 ～ 1200 年ぐらい前、平安時代のものです」

と、説明しました。

その後、少しの間、発掘調査現場で見つかった出土品は、親しみを込めて、「ウ〇チ土器」と呼ばれるようになってしまいました。「ウ〇チ土器は見つかったかい?!」などと冗談を言っでは、酷暑と呼ばれた夏の日の疲れを、みんなで笑い飛ばしたことが思い出されます。

（星の中の写真：脚付き土器の破片）

まほろん掲示板

1/5 (日) ～ 1/31 (金)

新春恒例干支展示

「ネズミでございマウス。」

1/18 (土)・19 (日)

・21 (火) ～ 23 (木)・3/1 (日)

土器づくり上級編

2/1 (土) ～ 3/29 (日)

企画展「ふくしま鉄ものがたり」

2/8 (土) 第5回館長講演会

「考古ニュースを解説する」

★行事名・日程は変更になる場合があります。

2/16 (日) まほろん冬まつり

3/7・8 (土・日)

シンポジウム「鉄の道をたどる」



編集後記

2月1日から始まる企画展「ふくしま鉄ものがたり」は遺跡から発見された鉄滓や製鉄炉跡から、古代の製鉄技術を読み解いていく展示です。

古代の福島は鉄の一大生産地でした。そこで行われていた鉄づくりは、いったいどんなものであったのか。ぜひご覧ください。

まほろん
通信
vol. 74

令和2年1月24日発行

開館時間 9:30 ～ 17:00 (入館は 16:30 まで)
休館日 月曜日 (月曜日が祝日・休日の場合にはその翌日ですが、GW とお盆期間中は開館します) / 国民の祝日の翌日 (土・日曜日に当たる場合は開館 / 年末年始 (12 月 28 日 ～ 1 月 4 日))
入館料 無料 (体験学習の内容によっては、材料費が必要な場合があります。)

お問い合わせ



〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86

☎ 0248-21-0700

fax 0248-21-1075

ホームページ

まほろん

検索

